

パブリックラボ

考える・つくる・つかうワークショップを通じたパブリックをみんなで楽しむ環境提案

パブリックラボの企画内容

ワークショップ広場に「パブリックな風景」と「住民の賑わい」と「地域のパブリックマインド」を生み出すことを目指す企画。わたしたち VUILD の専門領域であるデジタルファブリケーションを駆使して木の**パブリックファニチャー**を**住民参加型**で制作し、パブリックな風景を住民とともに生み出す活動を立ち上げます。

例えば、春はピクニック、夏はビアガーデン、秋は屋外遊具公園、冬はクリスマス装飾など、あらかじめ四季ごとに決めたテーマを設定するなど、住民からさまざまなパブリックファニチャーの**アイデアを募集**し、みんなで考え、製作可能なデザインに VUILD がブラッシュアップし、ShopBot でプラモデルのように組み立てやすいパーツに切り出します。それらを**住民と一緒に組み立て広場に設置**します。設置されたパブリックファニチャーは1~2か月程度常設され、住民に実際に活用されます。

つまり、**住民たちがパブリックスペースの「風景」をつくる行為に自ら関わっていく**ことにより「楽しみ」や「賑わい」とともに住民たちの「パブリックマインド」を自然な形で育むことを目指します。昨今のまちづくりにおける大きな課題とも言える住民の**「パブリックマインド」を刺激し、育てていく**、新たなパブリックスペースの設計手法としての発展（本企画：仮設的手法から常設手法へ）が期待できます。



パブリックラボのプロセスデザイン



みんなで「話す」



アイデアをみんなで「考える」



みんなで「つくる」



みんなでつかって「盛り上げる」

わたしたちのこと

VUILD PlaceLab は、「自分たちがつかう場所は自分たち自身でつくる」を当たり前の未来にすることを目指しています。「考える・つくる・つかう」ことを自分たちで循環できると、その場だからできる空間やコミュニケーションが生まれ、持続的なアクティブな場をユーザ自身が主体となって創造していけると考え、これまで複数のPJで実践しています。ShopBot というデジタル加工機を活用して主に木材を使用した建築や内装空間、家具什器の制作をしています。

(右写真：TOKYOMIDTOWN OPEN THE PARK 2023 にて企画・空間プロデュース・ワークショップを開催した「Picnic Lab」の様子)



フェーズ 1.

まずは使ってみる+住人さんの声をひろう



まずは、私たちが保有するレンタル什器「タウンユニット」を広場に展開し、実験的に場を使ってみる。同時に住人さんと一緒にアイデアを考えるワークショップを開催する。

フェーズ 2.

みんなで描いたアイデアをかたちにしてみる



小型の ShopBot (デジファブ) を広場に持込み、フェーズ1で出たアイデアをカタチにし、みんなでやすったり、組み立てたりするワークショップを開催する。

フェーズ 3.

みんなで広場を楽しむ+活動が生まれる



季節を楽しむためのパブリックツールをつくるワークショップを開催する。例えば、春にはピクニックツールづくり、冬にはクリスマスツリーづくりなどを行う。

フェーズ 4.

みんなで考えつくる、自活するパブリック



住人さんへの講習を実施し、自分たちだけでものづくりができる工房を整備する。また、地域の飲食店やフリーマーケット事業者などとのコラボでさらに盛り上げていく。